

令和 4 年 11 月 27 日 ADTA 臨床講座 IOS セミナー

演者:古澤清己先生

演題:「口腔内スキャナ、使いこなしている人はどう使いこなしているか」

2014 年 4 月、保険に CAD/CAM 冠が導入されました。導入当初は割れる等のトラブルも散見されましたが、そのあと 2022 年現在、大臼歯・前歯まで適用が拡大され概ねうまくいっているようです。CAD/CAM を業界全体がうまく使い倒している印象があります。

しかし、それもこれもある一つのファクターがあってこそで、それが「模型」の存在です。模型という「ゴール」を目指して歯科技工士は走ってきました。

ところが、口腔内スキャナ(以下 IOS)が導入されると、基本的に「模型レス」の運用になります。なぜ「模型レス」になるかは講演で詳しくお話しますが、今まで当然のようにあったものがなくなり、自分の作ったクラウンが「正しい」のかを確認するツールがなくなります。これはまさにパラダイムシフトで、価値観が変わり、また歯科医師と歯科技工士共通の「正解」へのガイドがなくなるのです。価値観が変わるということは新たに学びなおし、慣れる必要があります。今までの価値観のまま新しいツールを使用すると様々な判断ミスが発生するでしょう。まだ IOS に触れたこともない方が多くいる中で、どう運用していくか不安材料ばかりだと思います。

私はこれまで歯科技工用として IOS を併用してきました。そのケースは 5,000 ケースを超え、また IOS によってスキャンされた印象も 1,000 ケース以上設計してきました。そのため、「使えるデータ」を撮る方法も、データを使いこなす方法もどちらも可能になりました。

今回は IOS を使いこなすための根本的な知識や運用方法をお伝えし、実機を使用して IOS の得意なこと、不得意なことをデモンストレーションします。トラブルは必ず発生します。IOS で生じたトラブルの解決策は IOS をよく知ることです。これを機に IOS へパラダイムシフトしてみましよう。